

「理不尽な理由で辛く悲しい思いをする人がいない社会のために」

池田 徹 先生

医療福祉ジャーナリズム分野 修士2年 今岡 康子

「『理不尽な理由で辛く悲しい思いをしている人はいないか』という言葉に惚れ込んだ。」
私もこの言葉に、グッときました。

その言葉^{プラス}正義感で、職員数 1,650 名の大所帯を支える事業を展開する行動力。
そして「色んな人達から学び“今”が支えられている。」という言葉の一つ一つに重みと力を感じました。

多感な時期に障害のため「顔から火が出る思い」をした経験や、ストーマ造設前の直腸診で医師の「苦労しましたね。」という言葉。そして、「ストーマを造設することでQOLがあがった。」ということ。

それぞれの体験や、かけられる言葉の意味を知り、思いがあったからこそ、理不尽なことに胸を痛め、それぞれの個性を認め人に優しく人を大切に思うのだと思いました。

全国初の全室個室のユニット型特養のように、そこで過ごす人達に思いを馳せ、他人どうしが一緒に生活するうえでの尊厳や自尊心、プライバシーや居心地の良い空間といった配慮を考えること。

また、ナイチンゲールの看護覚え書をもとにした「生活クラブ高齢者支援 10 の基本ケア」にある「換気」についても、今、どのくらいの看護師が気に掛けているのでしょうか？

病院だから大部屋は「当たり前」のことであり、換気も空調をしているからと気に留めることなく、もしくは考えたことなどないのではないかと思います。

このままでは将来、「忙しい」看護師にとって変わり、バイタルチェック等、人の手を借りず AI が正確に行う時代が来るかもしれません。そして、本来、看護師の本業であった“療養上の世話”いわゆる身の回りのことも含めた身体的なケアは、ケアのエビデンスを学び技術向上に向けて努力されている介護士の方達の方が上手くなっていくのではないかと思います。

病室を“生活の場”として、治療のためそこで過ごす人のことを考え、「当たり前」だと思って疑うことがなかったことを変えていくこと。私達看護師が忘れていたこと。またおざなりにしていることとして、今一度、看護の原点に立ち返る必要があるのではないかと思います。

もう一つ気になること。

「『お父さんが僕の足に火をつけた。』って言っていた。」

息子が小学生の時、家族で夕食を食べている時に、同級生から聞いた話をしました。それを聞いて鳥肌が立ったのを今でも覚えています。虐待は報道される中での出来事ではなく、我

が子を愛し守るべき存在である親から苦しめられる子供たちが身近なすぐそばに潜んでいるということ。

最後に、講義をとおして、先生の熱い思いと行動力を見習わなければと、そして「理不尽なこと」に対して、看護師として何が出来るのかを考える機会と、とても勇気づけられる時間になりました。

どうぞお身体を大切に。そして、ありがとうございました。

—————*★*—————*★*—————

今岡様（c cゆき様、野村様）

レポート、読ませていただきました。

はい、私は、当時、千葉県庁職員だった野村隆司さんがつくった「理不尽な理由でつらく悲しい思いをしている人が、この千葉にいないか？」という一言にシビれてしまいました。

「理不尽」というのは、辞書では「道理に合わないこと」とあります。世の中には、つらく悲しい思いをすることがたくさんありますが、「理不尽な理由で」そういう思いをすることはあってはならないのです。実は、私だけでなく、多くの人がこの一言に出会って、心を揺り動かされ、千葉県の福祉改革に身を投じたのです。講義では、その話をするにはできなかつたのですが、健康福祉千葉方式と名付けた福祉改革の話は、それだけで1時間、2時間かかります。同報している野村さん、ゆきさんは、その仲間でした。

知事が変わり、千葉の福祉改革はしりすぼみになってしまいましたが、その時にできた人間関係は、千葉の大きな財産になっています。3月に、森田健作が3期目の選挙に勝ち、あと4年知事を続けることになりましたが、4年後には何としても、ともに歩める知事を生み出したいと、今から考えています。

目の前にいる一人の人を支援するために、地方政治や国政を変えることが何としても必要です。

今度、機会があったら、そんな話もさせてもらえればうれしいです。

ありがとうございました。

~~~~~

社会福祉法人 生活クラブ風の村  
理事長 池田 徹